



森本 幾子 (もりもといくこ)

専門は、近世近代商品流通史研究。主な研究対象地域は、阿波国撫養（現徳島県鳴門市）、大坂（現大阪市）、尾道など。当該地域の廻船問屋をはじめとする商人資本の経営分析や商品流通を介した地域社会との関係を主軸に研究を進めている。現在の研究テーマは①近世近代期瀬戸内海地域の商家研究②19世紀の大坂商人研究③19世紀の広島藩政史研究。

[研究論文]

教養講座 2018/10/24

近世尾道における地域活性化と来訪者の力 －行商人・芸能者・医療関係者－

尾道市立大学経済情報学部経済情報学科准教授
森本 幾子

はじめに

国および地方公共団体が「地方創生」や「地域活性化」を政策課題の一つとして推進してずいぶんと久しい。そこには、その地域を訪れ、また定住する者を呼び込み、雇用を創出することによって人口減少を食い止め、地域活性化を図るという目的がある。

実は、このような来訪者による「地域活性化」は、近世の頃より地域の人々の「自治的」な取り組みによって進められてきたものであった。そこでみられたのは、藩などの権力による「地域活性化」ではなく、地域に生きる人々が問題を共有し、自分たちで対策を練り、それらの方策を藩権力に上申することによって、それが認められていくという状況であった。

これらの献策を中心に担ったのは、実際の経済状況により精通していた豪農商や町・村役人層であり、近世後期から幕末期にかけて地域経済をけん引していく主体でもあった。

本講座では、尾道来訪者に関するいくつかの史料を紹介することによって、まず、訪れた旅人たちにとって尾道はどのような場所であったのかを明らかにし、つぎに、それら来訪者たちは尾道にとってどのような役割を果たしたのか、という点についても考察を加えた。

今回、主に使用した史料は「文化十五年久保町逗留願扣 久保町組頭徳平 文政甲申正月改名猪右衛門」・「文政十三寅十一月より旅人滞留願控 久保町組頭役伝右衛門」（ともに広島県立文書館所蔵青木茂氏旧蔵文書）で、近世尾道町の中心地のひとつであった久保町の町役人である組頭が、久保町に滞在した人々について記録したものである。これは、いわゆる宿帳に相当するものであり、全国各地から尾道を訪れた人々の出身地、尾道滞在期間、滞在の目的が明記されている。記録の期間

は、文化15年(1818)～天保13年(1842)の24年間である。そのうち、途中抜けている年もあるため、全期間を網羅しているとは言い難いが、それでも、全国から尾道を訪れた旅人の特徴をつかむことができる好史料である。

1. 尾道町の旅人管理機能

近世の町では、他国から商売等で訪れた人々に対し、無断で滞在させることは公的には認められておらず、必ずその滞在地域の支配者(尾道で言えば広島藩の出張所である尾道町奉行所)に滞在申請をすることが義務づけられていた。

尾道町における旅人管理について紹介すると、まず、全国からの旅人たちが尾道に滞在するためには、「逗留願」を尾道町奉行所へ提出の上、許可を得ることが条件であった。その実務を担っていたのが、尾道の町役人たちであり、これら町役人を通じて滞在者情報が尾道町奉行所へ上申されていたのである。

また、初めて尾道入りする旅人は、以前から尾道を訪れていた旅人の「添状」(紹介状)が必要とされ、万一、旅人たちが尾道滞在期間中に何か問題を起こした場合には、二度と尾道を訪れることができないような沙汰が下されることもしばしばあった。久保町の記録から尾道を訪れた旅人の逗留期間についてみると、最短で3日間、長期間になると半年間もの滞在となっており、何らかの事情で滞在を延長する場合には、尾道町奉行所に「追願」を提出し、許可をもらわなければならなかった。久保町では、通常7～8軒ばかりの宿が旅人を管理していたので、尾道の中心地であった土堂町・十四日町を合わせると、さらに多くの宿が存在し、全国からの旅人を受け入れていたことが推測できる。

このように、尾道町奉行所、町役人、宿が一体となって旅人管理を行うことによって、尾道の治安維持を図り、また、旅宿は全国から訪れた旅人たちの情報交換の場としても機能していたのであった。

2. 行商人たち

久保町組頭による24年間にわたる滞在記録を分析すると、近世後期に尾道を訪れた旅人のうち、一番来訪者を輩出していたのは大坂で、それに安芸国・播磨国・備中国・備後国・京都・出雲国・摂津国・備前国・大和国・江戸・石見国・越中国・伊予国・讃岐国・阿波国・伊勢国・尾張国・紀伊国などが続いている。

表1は、久保町の滞在記録をもとに、来訪者の多い国順に、それぞれ商売の特徴にしたがって、「行商」・「医療関係」・「芸能」に適宜分類したものである。例えば、一番来訪者の多い大坂の「行商」事例をみてみたい。大坂からの行商人の特徴としては、おもに以下のようなものが挙げられる(一部)。

- ①小間物類：櫛・こうがい／櫛・こうがい直し／べっこう細工／硝子かんざし／花かんざし／鏡細工／印籠巾着小売／袋物小売／打紐類など
- ②反物類：染地反物など
- ③生活用具類：行燈売／荒物注文取／箸注文取／大小すり鉢／ともし油商／油皿商／みの商／はいらず商売／下駄草履／箱火鉢商／万年杓商／有馬籠商など

表1 尾道来訪者の地域的特徴 (19世紀前半)

	行商など	医療関係	芸能など
大坂	庭築【南船場橋本町】／櫛・こうがい【鈴木町】【新町】【久太郎町】／櫛こうがい直し【天満老松町】／鼈甲細工【天満老松町】／硝子かんざし売【久太郎町心齋橋】／上菓子・菓子【天満・米子町】／八百屋物注文取【天満】／櫛子細工・鞆細工【天満】／小間物【安堂寺町】【高麗橋】【茨木町三丁目】【久太郎町】【船場博労町】【順慶町一丁目】【ときわ町】【御堂筋唐物町】【上町内本町】／小間物染地類【江戸堀】／染地反物【江戸堀糞町】【安土町三丁目】／金物【船場塩町】【南堀江】【順慶町】【北久宝寺町】【江戸堀糞町】／打紐類【新町橋西詰】／行燈売買【安治川新堀】【難喉場】【勝間】／大小すり本【下寺町】／細工道具・大工道具【船場塩町】／荒物注文取【松屋町筋九之助橋】【鳥の内鍛冶屋町】／碁将碁盤仕入目盛【淀屋橋二丁目】／花かんざし【天満】／諸国米問屋【堂島】／何角注文取【堂島弥左衛門町】／藍代かけ取【阿波屋幸兵衛・阿州北方政七】【小右衛門町】／箸注文取【御堂前】／書林・茶道具【堂島北町】／表具【上塩町五丁目】【天満】／みの商い【松屋町筋具足町】／油皿商【上町】／粘土【南久宝寺町】／はいくず【南御堂筋】／油商【四軒町】／あめ売【立売堀三丁目】／あめの鳥細工／子供手遊商【四ツ橋】／(蠅)はいらざる商売仕【御堂前】【玉造礼辻】／木槌細工仕【船場塩町一丁目】／天秤針口直師【久太郎町】【心齋橋南本町】／打敷紙おろし売【心齋橋筋南へ】／袋物商【順慶町四丁目】／薬焼そのほか和かん焼物指南【京町堀二丁目】／ともし油商【四軒町】／万年杓商【阿弥陀池】／下駄草履【船場博労町】【渡辺筋】／水鉄砲商【御堂筋】／箱火鉢商【勝間】／脇指小道具【内本町】／鏡細工【久太郎町四丁目】／七ツ入子【京町堀五丁目】／稲こき商【四ツ橋助右衛門町】／有馬籠売【四ツ橋】／印籠巾着小売【鳥の内】／袋物卸売【大手松屋町】／用事【坂町】【新町】【難波新地一丁目】【江戸堀】【天満】【道頓堀】【安堂寺町】【南堀江】【内平野町】【曾根崎村】【立売堀】【鳥の内】【安治川】	齒療治【道修町】／御國中御免薬売買／薬種【本町】／目薬相弘め【鳥の内小西町】／灸点【南堀江四丁目・鳥之内周防町(夫婦)】／売薬【淡路】【上本町一丁目】／医師修行仕【松本辰平殿方病人ニ付逗留】【鳥の内木綿屋町】／為眼病修行【堂島中三丁目】／あんま【安土町】	早口辻売【南瓦屋町】／嘶・座敷咄・嘶なそ解【新町(桂文治)】／座敷咄【南本町五丁目】／座敷浄瑠璃【新町】／三味線引【江戸屋宗口・娘小春・女中1人】【難波新地】／渡世三味線商売【安治川一丁目】／肩淨瑠璃本仕入【堂島中之町】／浄瑠璃修行【堂島】／座敷浄瑠璃仕【鳥の内南綿町】／座敷咄・式丁つつみ【江戸堀五丁目】／芝居【芝居嘶子方之道都合10人】【道頓堀】／辻咄【道頓堀松本町】／能狂言十六人芸【上町】／座敷長唄仕【立売堀中ノ町】／浄瑠璃仕【石町】／浄瑠璃語り【天満】／座敷咄【生玉馬場崎】／百人首読売仕【阿波座解船町】／細工物三本足娘のそき仕【高津新地三丁目】／座敷咄【道修町】／軍書講釈【天満霊符筋三丁目】／座敷願絵
安芸国	染地反物【広島十日市町】【広島塚本町】【賀茂郡阿賀村】／当町へかけ合【広島】／針【広島天満町】／筆墨【賀茂郡西条助美村】／筆墨【安芸郡熊野村】／糸物反物【熊野町】／道具【広島中嶋】／腰物類商【広島本町】／古道具掛物持参【広島空さや町】／古道具商【広島西魚屋町】／さらさかた付仕【広島本川畳屋町】／山まい(繭)純売【高宮郡鈴張村】【沼田郡小川内村】【山縣郡吉木村】／こまい油商【高宮郡】／めがね【広島塚本】／指物細工【沼田郡桶村】／下駄【高宮郡中深村(川カ)】／表具類【広島】【西条四日市】／絹物染地【賀茂郡菅田村】／反物卸売【府中市】／鉄商売【奴可郡西条】／蚊屋商【高田郡市川村】／用事【西条四日市中町】【広島本川】【広島(浅野孫左衛門様東城鉄方両村)】	煉薬小売・ねり薬・曾金丹練薬・一角練薬・紫金錠薬・曾命丹練薬・精気円・丸薬・虫薬【海田市】／一角煉香売弘【奥海田】／売薬【瀬戸田丹花】／膏薬商売【広島中嶋本町】／油ぬき薬【広島本川】／一元丹練薬・ねり薬【賀茂郡田口村】／印籠丸と申薬持参【廿日市】／医師【広島】／入歯細工【竹原】／口中療治【広島・竹原】／歯薬・歯磨き売り【賀茂郡長浜】／売薬【広島京橋金屋町】【賀茂郡長浜】／病氣養生【広島愛宕町】／医道修行【奴可郡西条住人】／あんま【竹原】【沼田郡】【豊田郡惣定村】【賀茂郡寺家村】【佐伯郡能海人之瀬(飛渡瀬)】／医学為執行罷越【賀茂郡】／医業【吉和村】	見世物商売【広島京橋金屋町】／汐風呂【広島鉄砲町】／新地ニ而塩風呂【広島猿橋崎町】／心学教尋【広島天神町】／軍書講釈【広島】／箱内からくり見せ物【(賀茂郡)長浜住人】／石印篆刻師【佐伯郡廿日市】／のぞき商【広島六丁目】
播磨国	呉服【赤穂・魚崎・多賀郡津方村】／箆細工【赤穂城下新町】／箆【赤穂尾崎村】／めがね・おさ【高砂】／剃刀砥石【高砂】／端物商【高砂】／金物道具【高砂】／呉服物掛方取揃ニ罷越【高砂】／小間物【高砂】【安田】／めがね糸物【多賀郡津方村】／櫛・こうがい【多賀郡津方村】／糸物類【多賀郡安未町】【多賀郡門前村】【多賀郡東安田村】／綿・繰綿【加古川】／綿わく細工【加古川】／小道具【加古川】／糸物類【加古川】／鼠取【明石新町】／反物類持参【明石西本町】／染地反物持参【あみだ】／いかけ細工【林田】／有馬籠細工【北条】／筆墨【北条】／たはこ入【室津】／元結【姫路】／下駄緒類【姫路】／絹糸類商【ひかけ取【今市】／水こんにゃく【多賀郡カ】／更紗形置職人【林田庄建部内匠頭様領大堤村】	あんま【上郡廣田村】【龍野(はり)】	
備中国	小倉真田・小倉袋物・足袋小倉【高沼】【茶屋町】／大小曆壳【笠岡八軒屋町】／小鳥売買・鑄懸細工・道具商い・鳥・茶道具刀脇差・高金物唐紙・力道具商い・小道具【倉敷】／花かんざし【倉敷川西町】／小間物商【三ツ口村】／櫛かんざし【早島】／時計細工【倉敷市場町】／印肉仕替【倉敷】／古手類【倉敷東本町】／足袋【連嶋】【福田村】／木綿足袋【浅口郡】／弁柄【吹屋】／いかけ細工【笠岡】／油方目代(山野)新屋徳右衛門(倉敷)絹屋十三郎(矢掛)谷口屋勘六)／道具類【吉浜】／脇差道具【金屋本町】／掛取り【大江村】／菓子売／櫛筭細工仕【小田郡川茂村】／子供手遊商【笠岡濱町】／燈心張替【川辺】／植木商【笠岡】／大坂役人罷越候様申付ニ付【笠岡村(役人)】／縁談用ニ参ル【倉敷】／銀談【入江新田】／用事【連嶋・倉敷・金毘羅仲野屋嘉六・外人足2人】【笠岡】【玉島】【絵師村】【赤崎新田村】【浜村】	売薬おろし【玉島】／金生丸卸／売薬【西浜村】／薬持参・居々薬卸【惣社田町】／練薬【久保屋郡浜村】／薬卸【下原】／鬻付け(あうそく)卸し【惣社町】／あんま【笠岡西本町】／養生(岡田御家中 村田廉次・上下2人)／病氣養生(西方村)／保養ニ参ル【小坂村】	八人芸【津山】／碁指南／碁ノ先生【口林】／のそきみせもの【倉敷】
備後国	わら細工【御調郡木梨村】／足袋／道具【下魚棚】／筆墨・古手【福山】／古手物商【福山深津町】／茶道具【福山上市町】／道具【神辺】／役用ニ付(庄屋ほか)【御調郡因島椋之浦】／鋸目立【福山蘭町】／熊肉売【庄原】／絵の工類商売【福山吉津町】／帽子商売【府中】／太物【鞆津】／町役所へ願筋ニ付【三原西町】／金物細工【鞆津】／用事【福山】【時安村】【神石郡】【上下町】【三原西町】	養生ニ罷越【三次五日市町・三原西町】／熊の胆丸商【福山吉津町】／病氣養生(医師)【府中】／膏薬売【三十日市町】【福山吉津町】／施御病灸点【中條村】／眼療(医師)【因島】／養生ニ参ル【因島】／あんま【神辺上市】【上下町】	碁指南【三次五日市町】／はまぐり細工【三原西町】／儒学修行【福山】／祝【福山やまの村】／算【(術カ)指南【鞆津】／三味線稽古ニ参ル【向島】／座敷浄瑠璃【向島】

	行商など	医療関係	芸能など
京	反物／小間物【寺町五条西へ入】／印判師【蛸薬師通富小路／印判仕替【寺町】／いろは教方本売【大宮通一条下ル町】／糸物小売【高倉三条上ル】／太物／横樋細工【梅ヶ畑善妙寺村】／用事【北野】	あんま【姉小路室町東へ入】／外療道具【大佛三宮町】／入歯細工【数珠屋町下ル】【寺町通り広小路】【堀川通り】／医師生駒大内之助・同妻／膏薬売り／一角丸商ひ【四条通り】／眼医師【四条通瓦屋町】	三味線稽古【四条烏丸上ル町】／座敷噺【祇園】【寺町蛸薬師（親子3人）】【御幸町】／座敷浄瑠璃【北野上七軒町・四条下ル船頭町】／福寿院配札【愛宕山】／画工【東山】／画修行【御幸町錦上ル町】／筆道哥字仕／諸国神社拜礼（京都吉田殿御内岸本帯刀・同萩野河内守殿御内平田宗純二人）／立花生花指南【四条通り】
出雲国	弓弦【松江廣瀬町】／弦【大■（原カ）郡】【木次】／綿打弦商【木次】／筆墨【松江茶町】【木次】／古手【木次】／合羽		
摂津国	植木【池田・川辺郡山本町】／櫛【池田つきのき町】／印肉【兵庫柳原町】／天秤釘【兵庫神明町】／用事【兵庫新在家町】／綿実問屋【神戸】／縫商ひ【尼崎】／用事【神戸】		
備前国	牽牛花売買【岡山】／反物商【岡山】／造花細工【岡山】／小倉【小（児）嶋唐崎村】／足袋売【小（児）嶋粒浦】／掛方つつめニ参【岡山新町・岡山岩田町】／端物商売【岡山上ノ町】／書画商【岡山富田町】／漆商い【西大寺】／小間物【西大寺】／帽子【岡山大雲寺町】／真田小倉類【国江村】／小道具／縁談聞合ニ参ル【岡山】／刀脇指とぎ【岡山ときわ町】／表具【西大寺一場町】【西大寺東町】／茶道具【岡山】／用事【岡山】	あんま【岡山・下津井】／入歯細工【岡山桜屋町】	座敷三味線【岡山】／能役者【岡山】／座敷浄瑠璃【岡山】／修験【児島郡下津井村】／諷師道諷指南【岡山尾上町】／茶碗早つき【岡山磨屋町】
大和国	晒【南都】／墨筆【南都】めがね【郡山観音町】／とうしん（燈心）商売【小柳】／印肉印判商ひ【萩原村】／木具類商ひ【高田村】／金通し張替【曾賀郡高市村】		
江戸	碁盤目盛【日本橋】／庭作【深川】／しつけ方本【浅草御藏前本籠町二丁目】／紺屋染物伝授仕【青梅町】／料理伝授仕【日本橋北左屋（鞘）町】／用事	もみはり・あんま・灸代膏薬【神田三河町】／あんま【神田御成道】／弘廣子丸薬【上之町白河町】／藤八五文薬【谷中山崎町】／完薬【上野広小路】／灸点仕【高殿町三丁目】【博労町三丁目（名灸）】／入歯【浅草田原町】【谷中山崎町】／文山と申医師	騎鳥喰（原田善太郎・上下10人）【麻布田崎町】／座敷咄【本庄一ツ橋】／歌本読売【本庄三ツ目長蔵町】／口画【京橋南伝馬町】／生花指南【浅草】／こま廻し（歯薬相添）【浅草田原町三丁目】／今昔滑稽集噺仕（白面舎理友・同娘こま）【八丁堀】／狂言師【八丁堀】／儒生【下谷御成道】
石見国	しつけ方読売【大森新町】／金物小売【大田町】	熊胆丸・黒丸【井津和村】／あんま【銀山領湯里村】	
越中国	呉服物【富山】／袖売買【富山ハツ尾】	薬入替【富山】／合薬商ひ【滑川】	
伊予国	せんべい（親子3人）【道後】／神酒■（徳カ）り【松山かわら町】／古手反物【宇和島本町】／用事【小松西町】【大洲】／時計細工【今治本町三丁目】	龍金丹商薬【松山小倉屋町】／入れ歯細工【宇和島】／あんま【大津之内】／医者執行【松山泉町】【松山山町】	花瓶引【松山浮穴郡田野久保村】／心学道話仕（医師）【松山】
讃岐国	団扇【丸亀魚屋町】／掛物持参商【丸亀通町】【志度浦】／紙細工燈籠【高松東町】／菓子小売【金毘羅】／用向【金毘羅町坂町】／大坂役人婦り之節迄逗留【塩飽】／鑄掛細工【志度浦】／真田商ひ【丸亀】／小倉帯地商ひ【丸亀】	売薬【観音寺】／あんま【金毘羅内町】【丸亀】	のぞき【高松松本町】／新地芝居へ用事【金毘羅（備中吉浜の者と一緒に）】／三味線細工【高松今新町】／軍書座敷咄【丸亀加屋町】
阿波国	糸物【徳島佐古町】／鼈甲細工【徳島籠屋町】／つむうり？【板野郡植（徳カ）命村】／銀談【学村】／用事【北方西分村】	目一遍灸治【那賀郡岩脇村】	狼見せ物（寅五郎・下人3人・女中2人）【徳島佐古町】／渡世浄瑠璃【徳島十一丁目】
伊勢国	用事【鳥羽】		太神楽（岡田忠太夫・上下7人）、（加藤源太夫・上下7人）【桑名太夫村】／咄【山田宮後町】
その他	（丹波国）糸物・唐糸物【氷上郡和田村】／古あんと直し【国水上郡】／座敷浄瑠璃【氷上郡】／軍書講釈【亀山】／（丹後国）袖【幾地村】【三河村】／反物類（但馬国）腕商【竹田】／柳こふり商【万場町】／（紀伊国）烏商い【和歌山】／燈心張替【和歌山茶屋町】／数珠商ひ【高野山】／灸点【和歌山宇治】／宇津土屋十兵衛より願参ル（病人）【高野山】／欠作猿芝居（備後宮内へ参り懸け（半之助他7人））【和歌山】／（土佐国）植木【下之茅】【八幡郡下田浦】／眼病療治（医師）／（周防国）綿・練綿【岩国千石原村】／大坂御役人御用ニ付（5人）【上関】／大坂御役人御用ニ付（庄屋ほか15人）【呼坂駅】／大坂御役人御用ニ付（庄屋ほか8人）【都濃郡花園駅】／奉公を望【佐波郡宮市町】／帽子【山口】／此度金毘羅より出雲大社参詣仕【宮市】／あんま【徳山】／（長門国）小間物小売【下関】／欄間判木【萩松本町】／あんま【下関米屋町】／眼病療治【萩】／道学講釈【赤間関】／萩之流染山直し【下関】／（筑前国）平野屋孫右衛門出店客【舟越町】／かけ取ニ参る【芦屋浦】／櫛・こうがい【博多町】／茶道具商【福岡】／画工【博多町】／（肥前国）めかね細工【長崎西浜の町】／赤金細工【長崎】／あんま【長崎大黒川】／絵師【長崎勝山町】／おらんだ細工のそき見世物【長崎左川町】／（豊後国）尋者ニ参ル【中村】／（伯耆国）毛綿【米子町】／みの商【久米郡泰久寺村】／基指南仕【米子八日市町】／（常陸国）浄泉寺へ用事【水戸】／宮島参詣舟中より病氣ニ付養生（4名）【信田郡阿見村】／神楽修行【鹿島大神宮社】／事触【鹿島社人2人】／（尾張国）呉服・糸物【木曾洗宿】／木櫛【木曾筑間郡熱川】／小間物【名古屋長者町】／煙草入れ／茶花指南【名古屋御還御門通り】／（三河国）生花【池鯉鮒宿本町】／人形遣い【新銭町】／（越後国）渡世越後獅々（大人2人、子供2人）【蒲原郡月形村】／（飛騨国）商売画執行【大野郡高山下町】／（美濃国）落噺座敷【武儀郡関本町四丁目】／（伊賀国）小間物商【名張郡高木村】／（信濃国）灸点【善光寺東町】／（淡路国）糸物商内【志筑】／（美作国）木地物【勝山】／（対馬国）船上り養生		

注）「文化十五年久保町逗留願扣」（久保町組頭徳平 文政甲申正月改名猪右衛門）・「文政十三寅十一月ヨリ年旅人滞留願控」（久保町組頭役伝 右衛門）【広島県立文書館所蔵青木茂氏旧蔵文書】より作成。

-
- ④工具類：鞆細工／金物／細工道具／大小道具／表具／木槌細工／水鉄砲商／脇差小道具／稻こき商／天秤針口直しなど
- ⑤大店関係：諸国米問屋／何角注文取／藍代かけ取／八百屋注文取／売敷紙卸商など
- ⑥指南：楽焼そのほか和かん焼物指南
- ⑦その他：庭築／茶道具／粘土／はいくず／あめ／あめの鳥細工／上菓子・菓子／子供手遊商／碁将棋盤仕入目盛／書林など

これらをみると、小間物類・反物類などの奢侈品の多さに気付く。当時、尾道を支配していた広島藩は、領民に対して繰り返し儉約令を発令している最中であった。これら奢侈品目の多さは、このような儉約期間中であつたにもかかわらず、行商人を介して尾道にぜいたく品が入り、それを求める人々が多く存在していたということを如実にあらわしている。そして、これら櫛・こうがい・かんざしなど女性のアクセサリ類は、大坂市中の新町・久太郎町心斎橋など、大坂を代表する遊廓や遊所があつた地域から尾道を訪れた行商人によって販売されており、尾道でも遊所の多かつた久保町では、大坂での流行物がいち早く取り入れられていたものと考えることができよう。

また、大坂の特徴をよく示す大店からの商品仕入や書林のほか、加工品・修理業者（櫛・こうがい直し、天秤針直しなど）などアクセサリ類や生活用品を直す技術者や指南者（楽焼など）の来訪が見られ、細分化された社会的分業の発展の様子をうかがうことができる。

また、人々の消費に対する考え方においても、どこの商品でもよいというわけではなく、大坂・京都など文化的先進地域の商品を消費したいという願望が生まれてきたことも確かであろう。

3. 医療関係者

次に、医療関係者についてみていきたい。表1をみると、その特徴として、様々な薬種売（全国）、眼鏡売（播磨国など）、入歯細工（安芸国竹原・京都）、按摩（全国）などを挙げることができる。

とくに、全国から按摩が来訪していたことは、当時、癒しの施術を求める人々が増加していたこともうかがわせる。近世後期は、尾道のような地域的市場が発展し、日本経済自体も成長を遂げつつあつたが、労働を強いられた人々にとってはその分疲労の蓄積もあり、自らの身体を労わる技術の需要も高まってきていたのではないだろうか。さらに、眼鏡や入歯の需要の多さからは、人々の自分の身体に対するケア意識の高まりをみることもできよう。

それでは、このように、尾道以外から多くの医療関係者が来訪したことは、当時の尾道の町にどのような影響をもたらしたのであろうか。文化12年（1815）12月、従来から尾道で開業している医者29名から、尾道町奉行所に対し、以下のような願が出された。

奉願口上之覚

- 一 乍恐書附を以奉願上候。私共年来御当地に而医業仕罷在候処、近来は旅医数人旅宿仕居候而、近頃借宅構、阿蘭陀奇薬等と申立、僊定売取、殊更病者を見立、直段究め追込治療等仕候由、か様之儀に而、世俗を迷し、直段定治療仕候得は、銀子手廻り候者は皆々旅医に相懸り、残る小家分計、住医之治療を受、過半施薬と相成候。右体之儀に御座候に付、旅医は不計流行も仕、仍而は住医共不景氣に相成候得共（中略）彼是以住医之者共は、只様不景氣に相成、当時一統困窮仕、是迄相続仕来候住所も無抛立退き（中略）

甚以難敷奉存候間、恐多奉存候へ共、何共御憐愍之上、以来容易に旅医逗留不相成様被為仰付（中略）、私共力に相頼候様之旅医罷越候得は、私共内より強而奉願上度奉存候間、是等之もの計逗留被為仰付被下候は、相続仕候而無此上廣大之御恩難有仕合可奉存候、以上。

亥（文化12年（1815））十二月

（『新修尾道市史』第六卷、p 524～525）

ところが、そのわずか4年後の文政2年（1819）11月には、尾道町年寄から、尾道町奉行所に対し、次のような願が出されている。

口 上

- 一 旅医当町逗留之儀、引請之者より請方之役方へ書附を以願出、役人共吟味之上、右書附御役所へ差出し、御免許を請来り候儀、先年より之法則に御座候。（中略）近来に而は住医共之内、功者分之者は、追々死失仕、過半若輩者計に相成居申候得は、何卒相応に治療仕候医師、当町へ得留め置申度と申合居申候事に御座候。（後略）

卯（文政2年（1819））十一月

（『新修尾道市史』第六卷、p 542）

つまり、当初は、「旅医」を敬遠していたものの、現実的には、尾道における医療関係者の減少と質の低下という問題が浮上したため、高度な技術をもつ他地域の「旅医」を導入することによって、地域医療を担保する仕組みを模索するようになっていく。

また、表1を確認すると、安芸国・備中国・備後国その他阿波国などから尾道に「養生」「保養」「治療」のために来訪する者がいたことが分かる。当時尾道には全国から医療関係者が訪れていたため、それら高度な技術を求めて周辺地域から人々が集まっていたものと考えられる。また、大坂・安芸国からは、「為眼病修行」「医道修行」などもみられ、医療関係者たちが何らかの「修行」をする場としても機能していたようである。

4. 芸能興行

さいごに、尾道を来訪した芸能関係者の特徴をみてみたい。あらためて表1をみると、芸能者来訪が最も多いのは、大坂である。大坂は現在も芸能の町として著名であるが、それは近世期以来培われてきたものであった。その芸能は、大坂にとどまることなく、広く全国に普及し、とくにつながりの深い尾道のような瀬戸内海の主要地域に伝播していたのである。

大坂からの芸能者たちは、早口辻売・座敷噺・噺なぞ解・座敷浄瑠璃・渡世三味線商売・式丁つつみ・芝居・百人首読売・細工物三本足娘のそき・軍書講釈・座敷願絵などを披露した。当時、大坂市中で流行ったものを記した享和3年（1803）の「近世浪華市中流行」（『撰陽奇観 卷ノ四十三』（『浪速叢書』巻五、1928年）をみると、絵本太閤記・町娘の三味線稽古・浄瑠璃ノ出語り・夕時ノ太功記など、軍書や浄瑠璃などが大坂市中で人気を博していたことが分かり、それがいち早く尾道にも伝播していたのである。

これらの芸能者たちは、親子のほか、仲間同士でも尾道に来訪しており、これらの人々の生計の場として、当時発展を遂げていた尾道などの瀬戸内海地域の町が存在していたということが言えるだろう。

それでは、これら尾道に来訪した芸能者たちは、当時の尾道町の活性化にどのような役割を果たしていたのだろうか。寛政6年(1794)4月、経済的不景気を迎えていた尾道では、町年寄が中心となり、地域活性化のための様々な方法を模索していたが、尾道町奉行所に対する以下のような願もそのうちのひとつである。

覚

- 一 当町者入津之湊に御座候処、近年入津客船無数浜手商ひ不景氣御座候に付、入津客船有之候様仕度、他所へ外聞、浜手商ひ景氣之為め、来五月中旬より日和廿日間、久保町之内砂寄場之通懸之小芝居差留置、興行為仕度奉存候。五月者旅客入津時節に御座候故、右興行為仕候は、所之為めに可相成と奉存候。(後略)

寅(寛政6年(1794))四月

(『新修尾道市史』第六巻、p 496)

この願では、久保町に滞在している他地域からの芸能者に芝居興行をさせ、集客を図ることによって、客船減少と不景気を何とか乗り切ろうとしている様子がうかがえる。表1をみると、大坂の桂文治や江戸の白面舎狸友(娘こまとともに来訪)(図1)など、当時第一級のエンターテイナーも一定期間尾道に滞在していたため、これらの人々の興行が周辺地域からの集客とそのための経済効果を尾道にもたらしたのではないかと考えられる。

これらの願が功を奏したのか、それから約20年後の文化11年(1814)には、尾道に常設の芝居小屋が完成し、そこで様々な興行が催されることとなった。その際、尾道町年寄や尾道町奉行所が尾道町を管轄する役人に対して強く説いたのは以下のようなことであった。

覚

- 一 此度芝居小屋出来に付、来る廿日より晴天日数十五日之間、興行仕度段願出候趣は承届遣し候通りに候。(中略)以来は別而作法宜、押売等之儀決而仕間敷候。(後略)

(中略)

- 一 芝居興行中は他国より之入込も多く可在、之に付、かさつヶ間敷儀無之、別而火之元念入、諸事縮り合、作法宜、町中一統之潤ひにも相成、他邦へ聞へ、第一は客方之氣請等も宜様、役人共におゐては、別而厚く心を付可申候。(後略)

戌(文化7年(1814))七月

(『新修尾道市史』第六巻、p 521 ~ p 522)

このように、尾道の住民自从来訪する芸能者を利用した尾道への集客を図り、常設の芝居小屋を完成させた後には、尾道町奉行所が、町を管理する役人に対して来訪者に接する際の態度(がさつな行為をしない、火の元に念を入れる、客方の印象を良くする等)に関する指示を出すなど、「官民」一体と

図 1



白面舎狸友

江戸生まれ。文政年間（19世紀前半）に活躍した芸能者。鳥・虫など様々な啼き色を真似たり、口と腹をたたいて大鼓や小鼓の音色を出したりすることで観客をわかせた。側の女性は、当世風の歌を歌いながら三味線をひいた（『名古屋市博物館資料叢書3 猿猴庵の本「新卑姑射文庫」』（2003年、名古屋博物館）より）。

白面舎狸友は、江戸のみならず、名古屋・京都に出向き、多くの人びとを笑わせた。尾道には、天保2年（1831）7月24日～8月5日まで滞在している。

なった「地域活性化」を図っていたことがうかがえる。

とくに「他所へ外聞」、「他邦へ聞へ」、「客方之氣請等も宜様」などの文言が示すように、尾道町年寄や尾道町奉行所は、他の地域から自分たちの町（尾道）がどのように見られているのかを常に意識し、さらなる発展のための方策を考えていた。これは、観光化を推進する現在の尾道市の政策とも共通するものがあるだろう。

おわりに

以上みてきたように、近世後期、尾道のような瀬戸内地域の中心地では、新たな「商品」（商品・技術・医療サービス・芸能など）流通の担い手たちが、庶民需要に応じる形で経済的・文化的活動を行っていた。近世後期は、尾道のような地域の中心となる湊や町場を移動しながら、そこを生業の場として生活する人々が全国的に増加している社会でもあり、尾道は、それらの人々の受け皿となるような町でもあった。そして、そのような来訪者の力を取り入れて「地域活性化」を図ろうとする町

の人々の献策によって、経済的不景気を乗り切る方策を考え、また、地域の医療技術を担保する仕組みを模索していったのであった。

【主な参考文献】（出版年順）

- ・青木茂編著『新修尾道市史』（第1巻～第6巻）尾道市、1972年～1977年
- ・神田由築『近世の芸能興行と地域社会』東京大学出版会、1999年
- ・中山富広『近世の経済発展と地方社会 芸備地方の都市と農村』（清文堂出版、2005年）
- ・拙稿「近世尾道を訪れた行商人たち」（『広島県立文書館だより』35号、2011年）